

平成22年度

山梨県障害者自立支援協議会報告書

平成23年3月

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
------------------------------	---

平成22年度山梨県障害者自立支援協議会年間報告

ア 運営部会・・・・・・・・・・・・・・・・	3
------------------------	---

専門部会

イ 児童部会・・・・・・・・・・・・・・・・	7
------------------------	---

ウ 地域生活部会・・・・・・・・	9
------------------	---

エ 就労部会・・・・・・・・	11
----------------	----

広域部会

オ 相談支援部会・・・・・・・・	13
------------------	----

カ 人材育成部会・・・・・・・・	15
------------------	----

キ 権利擁護部会・・・・・・・・	17
------------------	----

別冊参考資料

はじめに

山梨県障害者自立支援協議会の3回目の報告書を、皆様にお届けできる事になりました。

私たちは、試行錯誤をしながら、山梨県障害者自立支援協議会（以下、県協議会と略）を運営してきました。国や諸外国、他の都道府県にお手本になるようなモデルもなく、また山梨の障害者福祉のリアリティに対応するためにも、山梨の障害当事者や関係者、県内の地域自立支援協議会や市町村の声に対応するためにも、一からその仕組みを考え、作り替えてきました。

その中で、今年は思い切って、報告書の体裁から変えてみました。昨年度までの報告書と比較していただければ一目瞭然なのですが、断然読みやすい内容になっていると思います。その理由を、以下少し書かせていただきたいと思います。

昨年度の報告書ができた後、県協議会の新しい委員のお一人が、報告書を最初から最後まで時間をかけて読んでくださいました。その上で問われた質問が、報告書を作ってきたメンバーにとっては、強烈な投げかけでした。「この報告書は誰のためのものですか？」「本当に、広く障害当事者やご家族を始め、県民の皆さんに読んでもらいたいなら、難しすぎて、分量が多すぎませんか？」

問われてみてようやく気づいた事ですが、確かに昨年度までの報告書の分量は多すぎました。中身も、「自分たちがやってきた内容をまとめる」ことはできても、「その内容を県民の皆さんにわかりやすく伝える」という事ができていませんでした。その点に気づいたので、今年度の報告書は、部会毎にやった内容を整理した上で、わかりやすく伝える、ということに心がけました。

上記の例からもわかるように、県協議会は、毎年、常に試行錯誤をしております。しかし、それが悪いことだとは思いません。むしろ、動きつつある、変容しつつある現状に合わせて、私たちのアプローチや動き方が変容しないと、現場から必要とされる県協議会にはならないと思います。

さて、前口上はこのくらいにしておきましょう。今年度の報告書をお読みいただいた上で（今年の報告書なら最後までお目通しいただけるとおもいます）、お役に立てる内容ができているか、来年度にもっと皆さんのお役に立つ県協議会に高まるためにはどうしたらよいか、読者のあなたのご意見を頂ければ幸いです。

山梨県障害者自立支援協議会座長
竹端寛

運営部会

平成22年度の成果

- 専門的な課題（児童・地域生活・就労）と広域的な課題（相談支援・人材育成・権利擁護）を整理して、解決方法を考えるための部会を設置しました。
- 地域の自立支援協議会が困っている話を聴いたり、ほかの地域自立支援協議会の取り組みを学んだり、お互いの情報を共有したり、話し合ったりできるように県と地域の合同による協議会を行いました。
- 地域自立支援協議会、専門部会・広域部会、県と地域の合同協議会で取り組んでいることなどを話し合うため、全体会を行ないました。

★山梨県障害者自立支援協議会の組織図と概要は、5ページにあります。

★平成22年度山梨県障害者自立支援協議会年間スケジュールは、6ページにあります。

運営部会の目的

地域自立支援協議会からあげられてくる専門的広域的課題の協議・整理・支援を行なうため、専門的広域的支援に携わっている官と民の関係者による協働体制を構築して全体会、専門部会・広域部会、県及び圏域合同協議会を実施し、地域自立支援協議会の下支えを行ない、県障害者自立支援協議会が求められている役割を適切に実施できるようにする

平成22年度の活動

適宜下記の会議を実施しました

運営部会、専門部会、広域部会、合同協議会（県単位）、全体会

残された課題

平成23年3月に実施が見送られた圏域合同協議会の実施

来年度、第3期障害福祉計画の検討に即した専門部会、広域部会のあり方

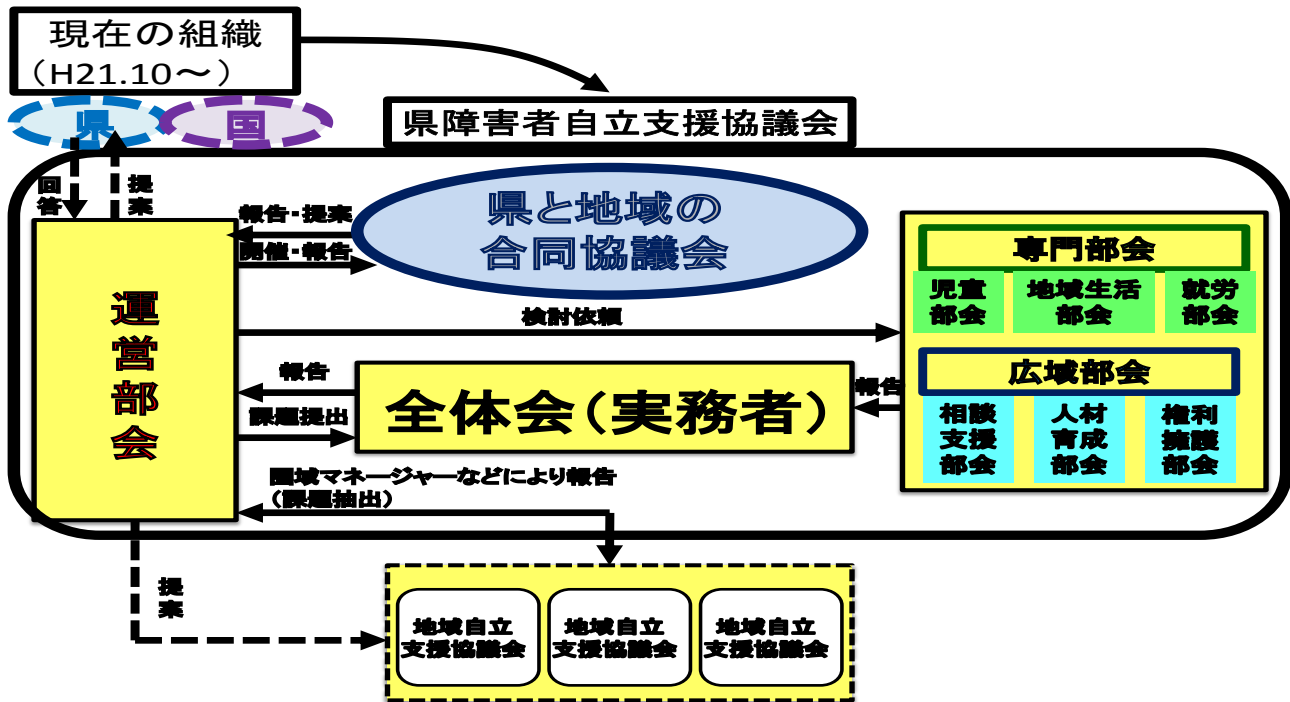
平成22年度の部会開催回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運営部会	1	1	1			1		1		1		1	7

平成22年度山梨県障害者自立支援協議会 運営部会構成メンバー

- 出口幸英 (人材育成部会長：中北圏域マネージャー)
 - ・森島美香 (児童部会長：東部地区地域療育コーディネーター)
 - ・中村光輝 (地域生活部会長：みらいファーム管理補佐)
 - ・森屋直樹 (就労部会長：すみよし障がい者就業・生活支援センター施設長)
 - ・篠崎秀仁 (相談支援部会長：峡南圏域マネージャー)
 - ・渡辺典子 (権利擁護部会長：富士・東部圏域マネージャー)
 - ・吉村 純 (峡東圏域マネージャー)
 - ・小泉晃彦 (県特別アドバイザー)
 - ・竹端 寛 (県特別アドバイザー)
 - ・河野 彰 (事務局：県障害福祉課 地域生活支援担当)
 - ・庄司恵美子 (事務局：県障害福祉課 地域生活支援担当)
- ※今井志朗 (県特別アドバイザー) 体調不良のため長期休業中

【山梨県障害者自立支援協議会の組織図と概要】



【山梨県障害者自立支援協議会の概要】

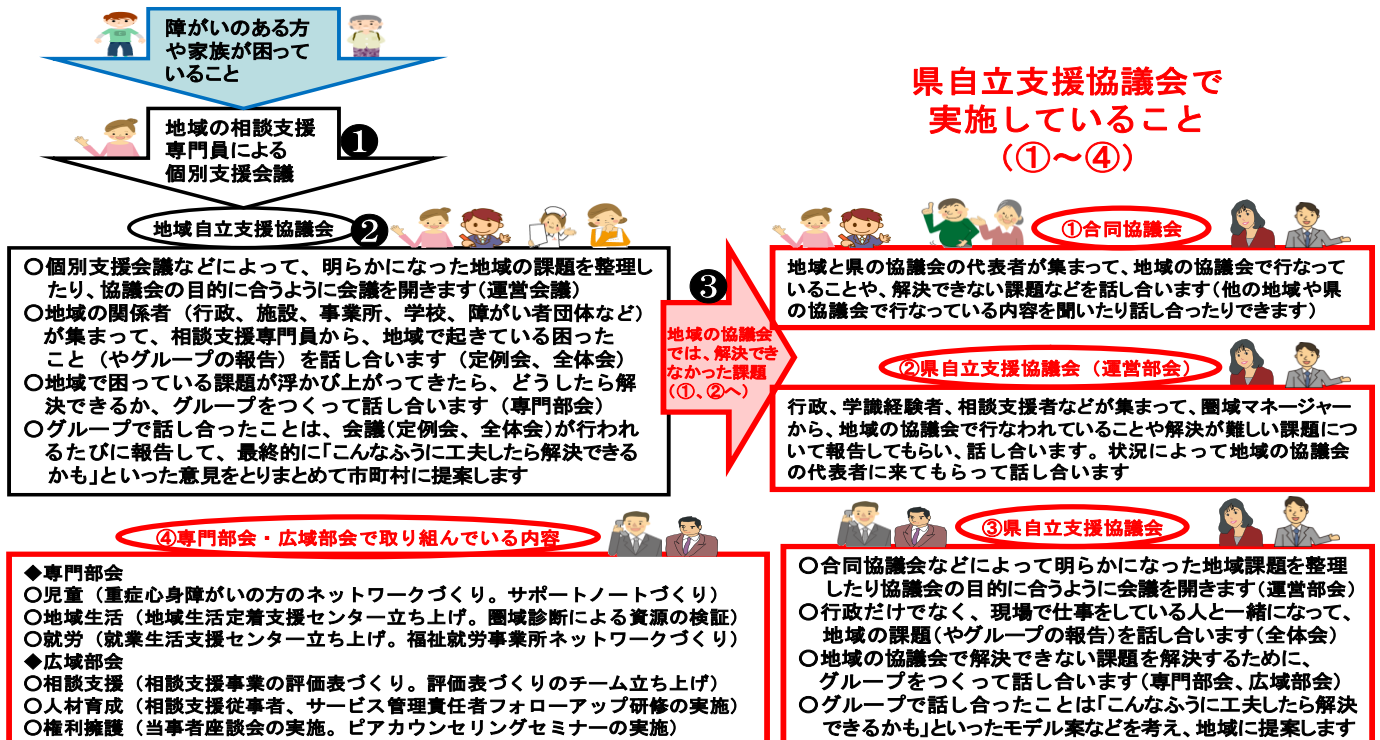
山梨県障害者自立支援協議会の概要

山梨県障害者自立支援協議会は3つの役割があります



- ① 広域的、専門的課題の整理の場 (⇒地域の自立支援協議会では解決することが難しい課題を開いて整理します)
- ② 実務者による課題検討のための協議の場 (⇒行政だけでなく、現場で仕事をしている人と一緒になって、地域の協議会で解決できない課題を話し合います)
- ③ 検討課題解決の素案づくりの場 (⇒グループをつくって話し合い「こんなふうに工夫したら解決できるかも」といったモデル案などを考え、地域に提案します)

障がいのある方の困っていることが、山梨県障害者自立支援協議会に届くまでの流れはどうなっているのでしょうか (①②③)



【平成22年度山梨県障害者自立支援協議会年間スケジュール】

平成22年度山梨県障害者自立支援協議会年間スケジュール

会議名	位置付け	責任者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営部会	部会、全体会、合同協議会など運営に関する調整。地域自立支援協議会との連携。その他必要に応じた調整	出口	4/13 PM	5/7 PM	6/30 PM			9/22 AM		11/1 PM		1/24 PM		3/28 PM
全体会	部会、合同協議会、地域自立支援協議会などの協議、検討	竹端		5/17 PM		7/30 AM				11/1 PM		1/24 PM		

合同協議会

県全体	位置付け	責任者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
県全体	県単位による県と地域間、地域と地域間の連携の場	庄司					8/12 PM								
中北圏域	圏域単位による県と地域間、地域と地域間の連携の場	庄司 圏域M												3/16 中止	
峡東圏域															3/22 中止
峡南圏域															3/23 中止
富士東部圏域															3/24 中止

専門部会

会議名	位置付け	責任者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
児童(全体)	専門的課題の協議。部会の判断で会議を開催	森島		1	1		1		1		1			
課題①重心のニーズ整理と調査					1	1	2	1	2		1			1
課題②補充サポートノート					1				1		1	1	1	
地域生活(全体)	専門的課題の協議。部会の判断で会議を開催	中村												
課題①地域生活定着支援センター					1	2	1		1		1	1	1	2
課題②圏域診断					2						6	1		
就労(全体)	専門的課題の協議。部会の判断で会議を開催	森屋			1	1		1	1	1	1	2	1	
課題①一般就労														
課題②福祉就労														
課題③3障害以外の障害														

広域部会

会議名	位置付け	責任者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援(全体)	広域的課題の協議。部会の判断で会議を開催	篠崎				1			2					
課題①実績報告書式														
課題②相談ガイドライン														
人材育成(全体)	広域的課題の協議。部会の判断で会議を開催	出口												
課題①研修担当者合同会議			1		1									
課題②年間スケジュール表					1									
課題③国指定研修支援、県独自研修開催						2	1	1	1		1			3
権利擁護(全体)	広域的課題の協議。部会の判断で会議を開催	渡辺												
課題①当事者座談会			1			1		1	1	1				
課題②ピアカウンセリング支援					2	2	1	2	1	1	1	1		
課題③研修会					1		1							2

児童部会

平成22年度の成果

- 重症心身障害児者の受け入れについて、事業所アンケートを行いました。
- 医療的ケア（吸引）について、研修会を行ないました。
- 重症心身障害児（者）関係機関連絡会（事務局:中央児童相談所）との情報交換を行い、連携を進めています。
- 甲府市作成の「相談支援ファイル」に、追加情報を記載できる「付属ファイル」を作成しています。

★事業所アンケートの結果は、別冊参考資料2ページにあります。

★医療的ケア研修会の報告書は、別冊参考資料6ページにあります。

★「相談支援ファイル」は、

甲府市のホームページでダウンロード、印刷できます(Ward、一太郎)。

※トップページの検索窓で 相談支援ファイル を検索すると簡単です。

「付属ファイル」は、完成しだい公開します。

児童部会の目的

児童福祉法に基づき、福祉だけでなく医療・保健・教育も関わる障害児の支援において、児童ならではの多岐にわたる課題を協議し、仕組みづくりや情報提供をしていく。

平成22年度の活動

重症心身障害児（者）のニーズ整理と調査の実施、関係機関との連携
医療的ケア（吸引）研修会開催

「相談支援ファイル」をより充実させる「付属ファイル」の作成

残された課題

事業所アンケート結果からの情報提供、課題抽出

「相談支援ファイル」「付属ファイル」の普及啓発

平成 22 年度の部会開催回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児 童 部 会		1		1		1		1		1			5
重 心 グ ル ー プ			1	1	2	1	2		1			1	9
サポーターグループ			1				1		1	1	1		5

2月に研修会開催（1回）

平成 22 年度山梨県障害者自立支援協議会 児童部会構成メンバー

- ・ 浅川よし子（山梨県自閉症協会：保護者）
- ・ 山本千峰（わかば支援学校地域支援部教諭）
- ・ 佐藤雅俊（障害者就業・生活支援センターコピット生活支援ワーカー）
- ・ 吉村 純（峡東圏域マネージャー）
- ・ 吉田真弓（中北圏域峡北地域療育コーディネーター）
- ・ 秋山真貴美（中北圏域南アルプス市地域療育コーディネーター）
- ・ 山寺利幸（富士東部圏域富士北麓地域療育コーディネーター）
- ・ 向山和美（峡東圏域笛吹市地域療育コーディネーター）
- ・ 小田切律子（峡東圏域東山梨地域療育コーディネーター）
- ・ 樋口純子（峡南圏域地域療育コーディネーター）
- ・ 若林由希（中北圏域甲府地域療育コーディネーター）
- ・ 庄司恵美子（県障害福祉課 地域生活支援担当）
- ・ 小野千恵（県障害福祉課 発達障害担当）
- ◎森島美香（富士東部圏域東部地域療育コーディネーター）

オブザーバー（必要に応じて）

- ・ 上嶋初江（保護者：平成 21 年度地域支援研修会パネリスト）
- ・ 岡 輝彦（県教育委員会新しい学校づくり推進室）
- ・ 河野慶仁（県教育委員会新しい学校づくり推進室）
- ・ 寺田 是（甲府市教育委員会 学校教育課）
- ・ 出口幸英（中北圏域マネージャー）

地域生活部会

平成22年度の成果

- 地域生活定着支援センターに関するシンポジウムを開催しました。
- 地域生活定着支援センター設立に向けて甲府刑務所の見学をしました。
- 圏域診断の情報更新のための説明会を県内6ヶ所で開催しました。
- 圏域診断の情報更新のための市町村・事業所・支援学校向け調査を実施しました。（現在も調査票を継続的に回収中です）

★地域生活定着支援センター概要、啓発研修会開催要項、啓発研修会アンケート結果については、別冊参考資料19ページにあります。

★地域生活定着支援センターについては、平成23年度中に設置予定です。

★圏域診断の集計については、集計しだい、県ホームページに公開予定です。

地域生活部会の目的

障害者自立支援法など関係諸法令で提供されているサービス・事業の現状把握及び改善、今後の障害福祉施策の方向性の協議・提案。

平成22年度の活動

- ・ 地域生活定着支援センター設立に向けて（シンポジウム開催 刑務所見学 運営支援体制の構築など）
- ・ 圏域診断（市町村・事業所・支援学校在校生への調査 圏域診断の必要性を訴える研修会開催など）

残された課題

- ・ 地域生活定着支援センター運営支援チームの構築
- ・ 圏域診断の活用方法及び継続的な圏域診断実施の仕組み作り

平成22年度の部会開催回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
地域定着支援センター			1	2	1		1		1	1	1	2	10
圏域診断			2						6	1			9

平成22年度山梨県障害者自立支援協議会 地域生活部会構成メンバー

PT1 地域生活定着支援センター

- 小泉晃彦 (県特別アドバイザー)
- ・芹沢 昇 (甲府刑務所 社会福祉士)
- ・藤井淑子 (保護観察官)
- ・小尾春美 (県障害者相談所)
- ・藤森雅恵 (県中央児童相談所)
- ・宮澤秀一 (山梨県社会福祉士会)
- ・深澤幹雄 (相談支援専門員協会：すみよし生活支援センター)
- ・渡辺典子 (富士・東部圏域マネージャー)
- ・森屋直樹 (すみよし障がい者就業・生活支援センター施設長)
- ・中村光輝 (みらいファーム管理補佐)
- ・河野 彰 (県障害福祉課 地域生活支援担当)

PT2 圏域診断

- ◎中村光輝 (みらいファーム管理補佐)
- ・小泉晃彦 (県特別アドバイザー)
- ・千野由貴子 (花園病院)
- ・廣瀬常隆 (スカイコート勝沼)
- ・石川一仁 (地域体制整備コーディネーター：峡南保健福祉事務所)
- ・青柳幾子 (地域体制整備コーディネーター：中北保健福祉事務所)
- ・中村佳栄 (地域体制整備コーディネーター：中北保健福祉事務所中北支所)
- ・秋山盛治 (地域体制整備コーディネーター：峡東保健福祉事務所)
- ・長田あゆみ (地域体制整備コーディネーター：富士・東部保健福祉事務所)
- ・服部敏寛 (サポートセンターハロハロ副所長)
- ・久保貴洋 (びゅー)
- ・石川小百合 (レーベン)
- ・河野 彰 (県障害福祉課 地域生活支援担当)

就労部会

平成22年度の成果

- 就業・生活支援センターを中核として未設置だった富士・東部圏域の就業・生活支援センター開所に向けての協力・連携体制を図り、24年度から開設することになりました。
- 事業所の抱えている課題を部会で抽出し、整理後、研修会を企画することになりました。
- 就労支援事業所関係者フォーラムを開催し、新法事業所や旧法事業所との情報交換や課題を出し合い、情報提供をしました。

★就労支援事業所関係者フォーラムのアンケートの結果は、別冊参考資料25ページにあります。

就労部会の目的

- ①県内で未設置だった富士東部圏域に障害者就業・生活支援センターを設置できるように関係機関が連携していきます。
- ②事業所の抱えている問題や新法移行に向けて、事業所間の連携を図り、課題解決に向けて、フォーラムを開催します。

平成22年度の活動報告

- ①既存の障害者就業・生活支援センターと富士・東部圏域就労ネットワークの連携を図り、富士・東部圏域のセンター設置に関するアンケートの結果（平成21年度実施）を踏まえて、学習会や協議を実施した。平成23年4月から「障がい者就業・生活支援センターありす」が開設される運びとなった。
- ②就労支援事業所関係者フォーラム開催
 - ・1月18日（火）（参加者45名 関係者9名 合計54名）
 - アンケートより、89%の参加者が次年度の開催を希望。

残された課題

- ①県内に4か所の障害者就業・生活支援センターが設置されたことで、就労に関してはセンターが中心となり援に当たることから、県の部会としては、次のステップとして、事業所支援の方向に向かいます。
- ②フォーラムのアンケートにより、継続のニーズがあることから、フォーラムの内容を吟味し、23年度も開催します。
- ③雇用形態のない福祉就労の事業所や地域活動支援センターとの連携を図ります。

平成22年度の部会開催回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就 労 部 会			1	1		1	1	1	1	2	1		9

平成22年度山梨県障害者自立支援協議会 就労部会構成メンバー

○森屋直樹 （すみよし障がい者就業・生活支援センター施設長）

・大野秀博 （山梨クリナース 施設長）

・駒井 康 （ステップ増穂 管理者）

・芳我和男 （緑の風 相談支援事業所 あおいそら）

・小椋英子 （県立聴覚障害者情報センター 聴覚障害者就労支援ワーカー）

・渡辺典子 （富士・東部圏域マネージャー）

・白須弘昭 （県障害福祉課 地域生活支援担当）

オブザーバー（必要に応じて）

・倉田洋和 （県商工労働部産業人材課）

・手塚 典 （発達障害者支援センター）

相談支援部会

平成22年度の成果

- 県内委託相談支援事業所が相談支援に関わる報告書式や記入方法がまちまちであったので統一した報告書式と記入方法をマニュアル化しました。
- 山梨県版市町村相談支援ガイドライン作成のための準備を開始しました。
日本相談支援専門員協会でもガイドラインの検討に入っているので動向を見ながら協議していきます。

★委託相談支援事業実績報告書式は、別冊参考資料28ページにあります。

相談支援部会の目的

山梨県内で30ヶ所の事業所が指定相談支援事業を行っており、市町村が実施する一般相談支援事業は27市町村のうち24市町村が民間法人等に委託している。普及率が高いが適切に相談支援事業を実施するため、相談支援に関わる事業の各種書式や中立・公平な観点から運営するための方法を県内統一した方法を検討する。

平成22年度の活動

- ・相談支援事業に関わる報告書式と記入方法の検討を行った。
- ・市町村相談支援事業の運営等に関するガイドライン作成の検討を行った。

残された課題

- ・報告書式と記入方法をマニュアル化したものが県内で使っていただき統一化できるか。改善等があるかどうか検証を行う。
- ・日本相談支援専門員協会のガイドラインを参考に山梨県版市町村相談支援ガイドライン作成を行う。

平成22年度の部会開催回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談支援部会				1			2						3

平成22年度山梨県障害者自立支援協議会 相談支援部会構成メンバー

- 篠崎秀仁 (峡南圏域マネージャー)
- ・ 出口幸英 (中北圏域マネージャー)
 - ・ 渡辺典子 (富士・東部圏域マネージャー)
 - ・ 吉村 純 (峡東圏域マネージャー)
 - ・ 小泉晃彦 (県特別アドバイザー)
 - ・ 小泉智子 (相談支援専門員協会：社会福祉法人八ヶ岳名水会 陽だまり)
 - ・ 久保貴洋 (相談支援専門員協会：社会福祉法人ぎんが福祉会 びゅー)
 - ・ 武藤 剛 (相談支援専門員協会：山梨市障害者総合相談センター)
 - ・ 森島早苗 (相談支援専門員協会：社会福祉法人聖ヨハネ会 富士聖ヨハネ学園)
 - ・ 政木広範 (就労支援ワーカー：すみよし障がい者就業・生活支援センター)
 - ・ 河野 彰 (県障害福祉課 地域生活支援担当)
- オブザーバー (必要に応じて)
- ・ 中澤桂太 (南アルプス市役所)

人材育成部会

平成22年度の成果

- 県障害福祉課が主催する研修会について、県障害福祉課研修担当と県自立支援協議会人材育成部会委員による合同の会議を行いました。
- 県障害福祉課が主催する研修会の年間スケジュール表を作成して県のホームページに掲載しました。
- 国で指定された研修会の企画、運営、支援を行ないました。
 - ・相談支援従事者初任者研修
 - ・相談支援従事者現任研修
 - ・サービス管理責任者研修
- 障がい当事者や支援者の技術を高めるため、山梨県独自のスキルアップ研修会を開催しました。
 - ・居宅介護従事者等現任研修
 - ・グループホームケアホーム世話人研修
 - ・相談支援従事者リーダー研修
 - ・相談支援従事者フォローアップ研修
 - ・サービス管理責任者フォローアップ研修
 - ・ピアカウンセリング研修

★平成22年度に県障害福祉課が主催した研修会の年間スケジュール表は、別冊参考資料30ページにあります。

人材育成部会の目的

国が定めた研修や県独自の研修など、障害当事者・支援者のニーズに合う良質な研修体制を構築するため、担当者間の横断的な連携、受講者への情報提供、実践者の意見をくみとった企画・運営など、現場のリアリティーに沿った安定性・継続性・実行性を備えた官民協働チーム（人材育成部会）による人材養成・育成を行なうことにより、障害者が地域で安心して生活できる人的環境整備の一端を担えるようにする。

平成22年度の活動

上記枠内（平成22年度の成果）を行ないました。

残された課題

県独自研修の内容見直し・検討

来年度以降の研修チーム編成

平成22年度の部会開催回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
担当者合同会議	1		1										2
スケジュール表作成			1										1
国指定研修支援、県独自研修開催				2	1	1	1		1			3	9

平成22年度山梨県障害者自立支援協議会 人材育成部会構成メンバー

○出口幸英（中北圏域マネージャー）

・渡辺典子（富士・東部圏域マネージャー）

・篠寄秀仁（峡南圏域マネージャー）

・吉村 純（峡東圏域マネージャー）

・中村光輝（みらいファーム管理補佐）

・小泉晃彦（県特別アドバイザー）

・石川一仁（地域体制整備コーディネーター：峡南保健福祉事務所）

・市川陽子（障害者相談所）

・成瀬由希恵（精神保健福祉センター）

・太田咲子（精神保健福祉センター）

・京嵩由季（県障害福祉課 心の健康担当）

・小野千恵（県障害福祉課 発達障害担当）

・齊藤美加（県障害福祉課 自立支援担当）

・庄司恵美子（県障害福祉課 地域生活支援担当）

オブザーバー（必要に応じて）

・白須弘昭（県障害福祉課 地域生活支援担当）

・竹端 寛（県特別アドバイザー）

権利擁護部会

平成22年度の成果

- 圏域の当事者の企画により、県内で「権利擁護について考える座談会」を開催しました。（峡東圏域・富士東部圏域・峡南圏域）
※地震の影響により、中北圏域の座談会は中止となりました。
- 山梨県障がい者等相談支援専門員協会の協力により、福祉医療機構からの助成金にて、ピアカウンセリング研修会を開催しました。
1日ピアカウンセリング2回　ピアカウンセリング集中講座1回
ピアカウンセリングリーダー研修会　1回
県外ピアカウンセリングリーダー　3名　計4回参加
- 地域支援研修会のシンポジストとして出席したり、県内のピアカウンセリング研修会の講師など、人材育成の成果となりました。

★「山梨県障がい者等相談支援専門員協会」の協力で実施したピアカウンセリングの報告書は、別冊参考資料31ページをご覧ください。

権利擁護部会の目的

- ①当事者に自立支援協議会へ参画して頂く過程として、県内の当事者の座談会を開催し、当事者の声や生活のしづらさを等の課題を整理し、部会員の構成メンバーを選出してきます。
- ②ピアカウンセリングセミナーを開催することで、当事者に県内で研修会を受講して頂き、県外セミナーにも参加することにより、当事者の人材育成を図り、県内のリーダーと部会を構成していきます。

平成22年度の活動

- ①「権利擁護について考える座談会」の開催
峡東圏域座談会：4月17日（土）参加者34名
富士・東部圏域座談会：7月17日（土）参加者59名
峡南圏域座談会：11月17日（土）参加者32名

中北圏域座談会 3月12日(土) 予定であったが東日本大震災の為中止

①ピアカウンセリング開催の支援

1日ピアカウンセリング

- ・7月10日(土) 当事者11名(関係者総勢19名)
- ・3月6日(日) 当事者29名(関係者総勢36名)

ピアカウンセリング集中講座1回

- ・9月12日~14日(2泊3日) 当事者8名(関係者総勢26名)

ピアカウンセリングリーダー研修会

- ・3月9日 参加者12名(当事者・支援者)

県外ピアカウンセリングリーダー 3名 計4回参加

CILくにたち・ピア・カンオンゴーイングなどのリーダー養成研修会
に参加⇒県内のピアカウンセリングの当事者講師としての人材となる

残された課題

- ①ピアカウンセリングの継続(活動費の捻出)
- ②部会名の改正と部会員の構成
- ③県内の本人会の実態調査

平成22年度の部会開催回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
座談会	1			1		1	1	1					5
ピアカン打合せ会			2	2	1	2	1	1	1	1			11
研修会				1		1						2	4

平成22年度山梨県障害者自立支援協議会 権利擁護部会構成メンバー

○渡辺典子 (富士・東部圏域マネージャー)

・吉村 純 (峡東圏域マネージャー)

・成瀬由希恵 (精神保健福祉センター)

・原田喜久男 (支援センターみさき 施設長)

オブザーバー (必要に応じて)

・篠崎秀仁 (峡南圏域マネージャー)

・出口幸英 (中北圏域マネージャー)